

東北大学ワンダーフォーゲル部OBが災害科学国際研究所を訪問されました(2016/10/23)

テーマ：東日本大震災、減災社会、災害と人間

場所：東北大学災害科学国際研究所（宮城県仙台市青葉区）

2016年10月23日（土）、東北大学ワンダーフォーゲル部43年卒業生15名の皆さんが、災害科学国際研究所(IRIDeS)を訪問されました。当研究所 人間・社会対応研究部門 災害情報認知研究分野の邑本俊亮教授が、まず災害科学国際研究所設立の経緯と理念、組織や研究の概要・特色、新しく始まったエリア・ユニット制などについて説明し、続いて「人間の行動科学的観点からの減災社会のありようは如何に」と題して講義を行いました。講義では、前半は災害時の人間の特性に関して、①パニック神話、②認知バイアス、③緊急時の心理と行動を解説し、後半は今後のために私たちができることについて、①災害や人間心理について知識を得ることの大切さ、②災害を生き抜く力を育むこと、③防災訓練の重要性、④震災を風化させずに語り続けることなどを述べました。講義後にはたくさんの質問があり、また最後に「大変興味深く、有意義であった」「これまで災害時にはハード面ばかりを意識していたが、人間の行動を左右するのは心理的な面が大きいことを改めて認識させられ、その教育・普及・実践が大変難しいこともわかった」「高齢化が進むこれからの時代に必要なことは何かを改めて考えるべきだと思った」「教育プログラムの開発に大いに期待する」「災害研には、日本そして世界の防災・減災のけん引役としての活躍を期待する」などのお言葉をいただきました。続いて、東日本大震災の被災と復興の記録3D映画「大津波3.11 未来への記憶」（25分版）の上映を行い、2階展示コーナーをご覧いただきました。



講義する邑本俊亮教授



講義の様子

文責：邑本俊亮（人間・社会対応研究部門）、鈴木通江（広報室）